

養豚農家の皆様へ

生産性向上による経営体質の強化を図るために

～飼養管理チェック表とポイント～

はじめに

配合飼料価格の高騰等により生産費が増加している今日、生産技術の向上により低コスト化を図ることが重要です。生産者の皆さんがこれまで取り組んでこられた生産性向上対策について、もう一度内容を確認し、より一層の改善に努めましょう！

生産指標

生産性向上を図るための指標として、次のものがあげられますので、自己の経営を把握しながら十分な飼養管理を行い、生産効率の向上による経営の安定化を図りましょう。

主な生産指標	全 体	所得下位20%	所得中位60%	所得上位20%
母豚飼養頭数	93.4	62.3	96.0	107.7
1頭当たり年間分娩回数	2.2	2.2	2.2	2.3
1腹当たり総産子数	11.2	10.5	11.3	11.1
1腹当たり年間哺乳開始頭数	23.4	21.9	23.6	24.1
1腹当たり年間子豚離乳頭数	21.5	19.7	21.7	22.0
1腹当たり年間肉豚出荷頭数	19.8	16.3	20.4	20.4

先進経営調査（中央畜産会調べ）

生産性向上のポイント

生産性の向上は、多くの要因について総合的に対応することが必要です。もう一度以下のポイントについて見直しなどを行い、より効率的な生産を目指してください。

各種疾病対策	①施設の衛生管理を徹底 ②導入豚・飼料の適切な受入 ③飼養豚の健康管理
繁殖成績向上	①受胎率の向上 ②子豚の事故防止 ③繁殖成績等の記録徹底
肥育成績向上	①適正な飼養管理 ②ピッグフローの改善 ③肉豚出荷の効率化

飼養管理チェック表（豚）

No. 1

（１）各種疾病対策

遺伝的能力がいくら高くても、疾病に感染するとその能力を十分に発揮できません。豚の場合、特に慢性呼吸器疾病に感染していると肥育豚の発育遅延や飼料効率低下が起きます。SPF豚などの健康豚は感染豚と比較すると約20日発育が良いと言われますので、疾病のない環境で飼育することにより、肥育豚1頭あたり約1割のコスト削減が期待できます。

そのためにはCheck！

ア 施設の衛生管理	評価	備考
畜舎（器具機材等含む）の定期的な清掃・消毒を行っていますか （害虫駆除も定期的に行いましょう）		
許可者以外の立入を禁止していますか （部外者専用の長靴、白衣等を用意しておきましょう）		
適切な洗浄・消毒プログラムを実施していますか （消毒薬は適正な濃度で使用しましょう） （糞や敷料の搬出後、清掃→水洗→乾燥→消毒→乾燥の順に実施） （踏み込み消毒槽の設置、立入車両の制限と消毒の実施）		
イ 導入豚・飼料の受け入れ	評価	備考
導入元農場の衛生管理状況は適切ですか （オーエスキー病、PRRS等がフリーであること） （各種ワクチン接種及び駆虫を実施していること） （豚の体表の汚れがなく、消毒されていること）		
導入豚の隔離及び健康チェックを実施していますか （一定期間隔離飼養し、健康状態及び臨床的異常の有無を確認） （個体証明及び衛生証明の確認）		
飼料の受け入れ時に異常がないか確認していますか （受け入れ時に、量、製造業者、納入業者、ロット等を確認） （飼料の外観、色、異常臭の有無、異物の混入などを目視検査）		
ウ 飼養豚の健康管理	評価	備考
飼養環境は良好ですか （過密飼養はストレスの原因です） （良好な発育のために、畜舎の温度、湿度、換気を適正に調整）		
健康状態の確認、記録を行っていますか （毎日の巡回により異常豚の早期発見に努めましょう） （異常があれば、獣医師等の診療または指導を受けましょう）		
農場に合ったワクチンプログラムを実施していますか （疾病の発生状況や抗体保有状況等を踏まえて行いましょう） （ワクチン等に頼りすぎない衛生的な管理も心がけましょう）		
定期・臨時の衛生検査により農場の衛生状況を把握していますか （家畜保健衛生所や管理獣医師、衛生検査会社等による検査） （検査結果に基づく衛生対策の実行）		

注）評価欄〔実施：○、一部実施：△、未実施：×、該当なし：－〕

(2) 繁殖成績向上		
<p>ア 受胎率の向上</p> <p>母豚の分娩間隔は146日間（妊娠期間114日、哺乳期間25日、交配期間7日）では、年間分娩回転率は2.5回となります。しかし、離乳後最初の発情を見逃したり、受胎しなければ、分娩回転率は減少します。経営指標は分娩回転率2.3以上ですが、分娩回転率を0.1上げると1腹当たり出荷頭数が1頭増加するため、母豚100頭規模の経営では枝肉販売価格で年間300万円の増加となります。</p> <p>そのためにはCheck!</p>	評価	備考
<p>適切な母豚の管理を行っていますか （毎日の発情確認と適期交配の実施） （妊娠鑑定は30日前後に必ず行い、長期空胎を防止） （妊娠ステージ・栄養状態に応じたこまめな飼養管理を行う）</p>		
<p>適切な種雄豚の管理を行っていますか （精液性状の確認と使用頻度） （栄養状態に応じたこまめな飼養管理） （産肉能力の優れた個体の計画的な導入）</p>		
<p>母豚の適期更新に努めていますか （繁殖及び肥育成績の記録・記帳に基づく徹底した管理） （母豚の更新は7～8産が目安）</p>		
<p>イ 子豚の事故防止</p> <p>子豚の事故は、出生後数日間に多発し、その数は正常分娩豚の15～20%すなわち1腹当たり平均1～2頭ということになります。しかし、事故防止に努めることにより、育成率を向上させることが可能です。肥育豚数が1割増加すれば収益も1割増加することになります。</p> <p>そのためにはCheck!</p>	評価	備考
<p>哺乳豚の事故防止に努めていますか （早めの初乳給与及び虚弱子豚の介護） （圧死の防止〔分娩柵の不備や母豚の脚弱が原因〕） （産子数が多い場合は、里子又は人工乳給与） （切歯・断尾時〔1日齢〕には鉄剤投与、去勢は7日齢以内に実施）（適期に離乳〔21日齢、6.2kg〕） （生後1週間以内の局所暖房は30℃以上、分娩豚舎は20℃前後）</p>		
<p>子豚の事故防止に努めていますか （保温・湿度及び換気等に注意し、適切な飼養環境を整える） （離乳後2～3日は特に飼料摂取状況を観察し下痢を予防） （子豚舎への移動時は、環境急変によるストレスの緩和に努める） （発育不良豚やヒネ豚は一つの豚房に集め、飼い直しする）</p>		

注) 評価欄〔実施：○、一部実施：△、未実施：×、該当なし：－〕

（3）肥育成績向上

肥育は、豚が健康で、給与した飼料が無駄なく効率的に肉に変換され、市場で上位に格付けされることが重要です。格付けが「上」と「中」では、枝肉単価で約20～30円/kg、枝肉1頭分では約1,800円違います。そのため、母豚100頭規模の経営では、上物率を10%上昇させることで、収入が約40万円増加します。

そのためにはCheck！

ア 飼養管理の適正化	評価	備考
飼養密度は適正ですか (0.8～1.2m ² /頭確保しましょう) (密飼いは不揃い、疾病率上昇、異常行動の原因となります)		
飼料給与は適正におこなわれていますか (飼養密度の適正化により、食べこぼしや無駄食いを防止) (上位格付率の向上のためには、制限給餌による管理も必要)		
オールイン・オールアウト方式等を取り入れていますか (肥育前期から後期にかけて同時に出荷できる群に再編成) (少なくとも豚房毎にはこの方式を取り入れましょう) (ピッグフローが適正か見直しましょう)		
イ 肉豚出荷の効率化	評価	備考
肥育豚の斉一性を図り、定期的な出荷が行えていますか (遺伝的能力の高い母豚及び種雄豚を揃える) (交配を計画的に行い、季節の偏りを小さくする) (肉豚出荷時の体測等、出荷体重〔110～115kg〕を管理する) (異常豚の早期発見及び適正な処置〔別飼い等〕)		

（4）経営管理技術

経営の目標を明確にし、それに向けた課題解決を行っていくことが、家畜の生産性向上や生産コストの低減などにつながります。自己の経営を見直し、適正に管理することが、現在の厳しい情勢を乗り切るためには重要です。

そのためにはCheck！

ア 経営目標の設定と実践	評価	備考
自己の経営について、PDCAサイクルを実施していますか (Plan：適切な生産計画〔経営目標〕をたてましょう) (Do：その計画を実行しましょう) (Check：目標どおりできているかチェックしましょう) (Action：問題点等の改善を図りましょう。) (目標項目としては、分娩腹数、離乳頭数、交配頭数、事故率、出荷頭数、上物率等があります。)		
イ 記帳とその活用	評価	備考
経営に必要な事項（作業・購入品目等）を記帳していますか (記帳内容を分析し、経営改善に役立てましょう) (作業日誌、管理日誌、繁殖台帳、飼料購入台帳、金銭出納帳等)		

注）評価欄〔実施：○、一部実施：△、未実施：×、該当なし：－〕

評価が△や×の項目は、○を目指して改善を進めましょう！